

社説

市區改正の速成と望む

東京市は我國の首府にして全國の繁盛を集むる中心の場所なれば其規模擴張自から相當の壯觀を具へざる可らず左れば道路橋梁を改良して人車馬の通行を安全ならしめ河川溝渠を疏通して貨物の運搬を便にし水道下水の類は勿論家屋の制をも新にして市街の整頓を謀り市民の衛生を進むるの必要は明白なれども遷都御々新計畫に着手の暇なく家屋を造るにも道路を開くにも従來不規則の仕来りに一任したるが故に市街の體裁甚だ不整頓にして不都合極まる有様を呈したり東京市にして往時の如き都會ならんには差支なければも首府のま

其中より水道の費用を辨するの餘裕なければ政府は明治廿三年水道條例を發布し水道工事の設計並に同工事に供す可き財源を定め爾來その事に着手して今正に工事中なり右は今日迄の事實にして其設計を著々實施するときは市區改正は自から完成す可き筈なれども目下の實際に其事業の進行如何を見るに中央肝腎の市區さへも未だ改正の利に浴する能はず道路の改良の如き唯道幅の取擴のみを主眼として修繕維持の法を講ぜざるが故に少しく降雨の積るときは溝路泥濘に變じ又晴天の日は恰も砂地の觀を呈して人車馬の通行に非常の困難を與ふるは毫も改正前に異ならず其眼目とも云ふ可き道路の不完全なる斯の如しとありては他の事業の進まざるも怪むに足らず斯る始末にては今後幾年を経ても改正の完成を見る可きや甚だ覺束なきとして其間には府下の商賈次第に繁昌を催はすと共に地價はますます騰貴して人家の立退取拂又は土地の買上等に非常の費用を要するは勿論種々の苦情反對も起りてま

グロッドストーンの文章(四)

歐羅巴土耳其の殘餘の部分中クリト嶋は長らくの間土耳其の暴虐壓制に對し堪忍最も少かりしものなりたり此頃ヨナチオス氏の投書に依りて公衆の眼前に持來されし數度の叛抗の一に於て起りしものと覺ゆ其數二百若しくは三百のクリト人は戰争いよく破裂せんとする最後の危機に迫られしとき土耳其人が打勝ちたる敵を取らふ手並は毎度の例に據りて知る身の想像するさへ身毛の竝立つ虐殺暴行を受けんよりはとて則ち彼等の僥倖と共に一塔の内に集まり其塔を破裂せしめて死を共にしたり然るに勇武甚す可きクリト嶋民は今や復た義兵を擧げたり然れども事の委細は二月十五日のタイムズ紙に出でたるヨナチオス氏の投書に明にして之に對する答辯は余の知る所だけにては未だ見當らず唯だクリト嶋民の前途無望なるは彼等が是まで孤獨なるをも顧みず抑壓非道より身を脱せんが爲め土耳其帝國の全力を引受けて長時期の間生死の戰を爲したる幾多義軍に徴して知るを得可しヨナチオス氏は千八百三十一年、同四十一年、同五十八年、同六十六年より六十八年、同七十七年より七十八年、同八十九年及び最後に千八百九十六年の叛抗を數へ擧げたり是等の年號列記は以て其叛抗の効力如何を自證するに足れり凡そ粉砕するは酷烈なる壓制を受くる場合を除くの外、斯くまで衆寡等しからざる戰を爲すは人情の常に非ず蓋し此壓制の委曲、及び土耳其がクリト嶋民に課せたりと稱し稱しながら其實れを無効化せしめて廢却せしめたる詐欺、並に少數回教徒を犠にコンスタンチノールより送出して讓與の計畫に武力を以て抵抗せしめたる土耳其特得の政略、凡そ此三者は其適當の探り探所たる時の歴史に於て探求せらる可きのみ

此歴史に現はれたる數條の事實をば唯だ其概略を記して單に數へ立るのみにては土耳其中央政府の有罪を明瞭するに足る可く同政府が其血腥くして而も無効力なる支配權を享有するの權理なきを示すに足れり是より先に議論を進むるは無用の辨なり我々は既定の事を論じ居るなり如何となれば六強は假令自家自由の意志に出でたるにはあらねど現に角にクリト嶋の平和回復を其今後の運命決定を引受けたり然れども我々は此干渉を以て是まで感む可く職む可き無氣力の合同に終るを以て常とせし所の列國會議の氣力再興に勝す可らず

希臘の天晴れる勇氣
列國とは異なりたる新氣質に支配さるる新役者、無量